

少しでも自分の思いを人に伝えられる子

—家庭での取り組みと連携をつよめて—

市谷 尚三

### 1. 対象児のプロフィール

生徒名 Sk・Y (女) 昭和48年11月4日生 (中学部3年)

本校小学部より入学し現在に至る。IQ 測定困難 語い年齢3歳2ヶ月(PTV)

ダウン症・てんかん (発作は数ヶ月に一回位いと頻度が少なくなっている)

#### ◎ 遠城寺式幼児発達検査

項目	移動	手の運動	基本的習慣	対人関係	発想	言語理解
発達年齢	2:9	2:0	3:0	2:3	2:6	2:0

#### (1) 一般的特性 (今後の取り組みの課題とも関連して)

- ・衣服の着脱をはじめとする身辺処理の面では、ゆっくりとした動作ではあるが自立の方向が定着してきた。また、自らの衣服の整理・整頓、自他の持ち物の区別などきちんとできる。ただ、極度の配慮のため動作が緩慢である。
- ・友だち、あるいは学級集団とのかかわりでは、一人あそびに没頭する傾向をのこしているが、リズム運動・うた遊びなど、本児にとって興味・関心のあるものには意欲的に参加することができる。「朝の会」の進行(当番)などでは、自らの仕事をやりとげようとする社会化の強まりがみられる。ただ当番でないときの他から働きかけに頑固に応じないことがあり、克服したい課題である。
- ・ダウン症児の言語発達上の問題点と言われていることではあるが、自らの思いを伝える言語表出におくれがあること、また、口腔など発語器官と関係する構音障害が顕著である。

#### (2) 家庭状況とかかわる特性 (生育を通して)

- ・母親との関係は非常に良好であるが、本児をめぐる夫婦間や祖父母と母親

の確執のはざま、**「かるた」**を中心とした**「ひとり遊び」**が習慣化し、それが学校生活にももちこまれ、対人関係を阻害している面がある。それだけに自分で気に入った教師や友だちを独占して遊び相手としようとする傾向が強い。

- ・母親の過保護的な養育姿勢が、本児の性格形成に関係していると考えられるので、暦年齢担当の親や教師の接し方、自発性を育てるとりくみなどが重要な課題だと考える。

## 2. 問題点と本児を研究対象児に取りあげた理由

- (1)本校に転任（学級を担当）して、教室の中で最も、ぽつんとした（孤立）存在であり、近づいて行くといきなり腕をとられ、「童謡」をうたうことを要求されたのが本児との出会いであった。
- (2)昨年度の本校の「研究紀要」（第9集）で、本児の「肥満解消」にとりくんだ事例の中で、「家庭との連携」（学校のとりくみに対する家庭の理解）の最も必要とされている子どもであることを痛感した。（前述した「家庭状況とかかわる特性」の中の問題点でもある）
- (3)本年度の研究課題となった「からだづくり」の面で、「食生活の改善による肥満の解消」や「リズム遊び（体力づくり）を通して緩慢な動作の改善」・「うた遊びや絵カードによる表出言語の拡大」など、最も重視する必要のある子どもであると認識した。

## 3. 取り組みの構想

- (1)家庭で「かるた」による「ひとり遊びしかできていない現状に立つて、本児の欲求（学習意欲）を充たすことのできる学校生活（カードあそび、うた遊び、リズム運動などの機会を思いきり拡げる）を確立する。
- (2)「肥満」の原因となっている家庭での食事のあり方を、保護者の理解と協力を得て改善する。そのために、家庭での食事内容の調査を依頼し、問題点を科学的に分析し、改善の方向性をきちんと示す。

この場合、親の養育姿勢の問題点を卒直に指摘するとともに、本児の発達や成長が周囲の正しい理解で一層すすむことへの確信となるよう留意したい。

(3) 言語の理解と表出を高めるために、「文字カード」と「絵カード」によるとりくみを開始する。また、口腔など発話器官のはたらきを高めるために、本児の好きな「童謡」を共にうたう機会をひろげるとともに、「すう」、「ふく」など口腔機能（呼吸法）を発揮させる機会を生活の中で経験させる。

#### 4. 取り組み（実践）の現状と考察

##### (1) リズム運動を中心とする「体力づくり」

一学期の「10分間走」などでは、全く緩慢な動きで、ひっぱられたり、おされたりして走っていたが、このリズム運動のとりくみがはじまってからは主体的に運動にかかわろうとするだけでなく、動きがみちがえるほど活発になってきた。

##### (2) 食生活の改善による「肥満」の解消

7月の「食事内容」の調査では、問題点として栄養素のアンバランスとカロリーの過多が示された。そのため、養調の先生に分析結果の説明と、今後の食生活のあり方を卒直に示してもらおうとともに、親としてどのような姿勢で本児とかかわるべきかを担任として真剣に話し合った。

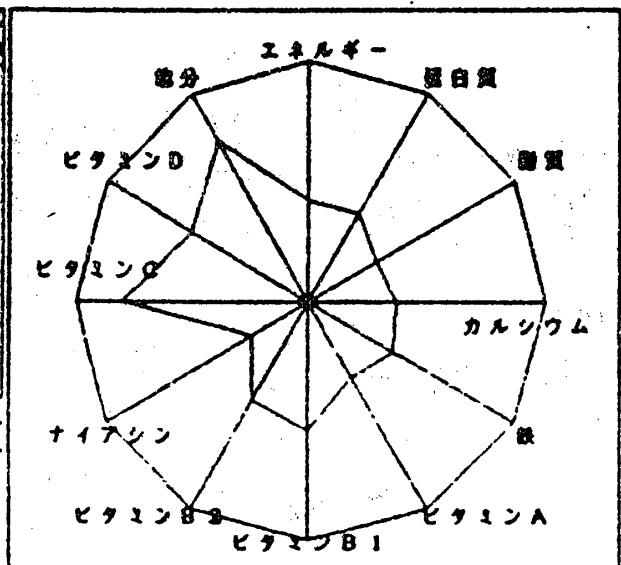
その結果、次のようなとりくみの成果がみえはじめている。

栄養素摂取レーダーチャート（総算）

栄養素	摂取量	所要量	充足率 (%)
総エネルギー (Kcal)	628.8	1960	42.3
蛋白質 (g)	29.7	70	42.6
脂質 (g)	21.3	56	32.7
カルシウム (mg)	258.8	700	37.0
鉄 (mg)	4.9	12	41.0
ビタミンA (IU)	684.4	1800	38.4
ビタミンB1 (mg)	0.4	0.8	53.3
ビタミンB2 (mg)	0.8	1.1	47.1
ビタミンC (mg)	3.8	13	27.2
ビタミンD (IU)	40.2	50	80.4
ビタミンE (IU)	57.8	100	57.8
塩分 (mg)	7.8	10	77.7

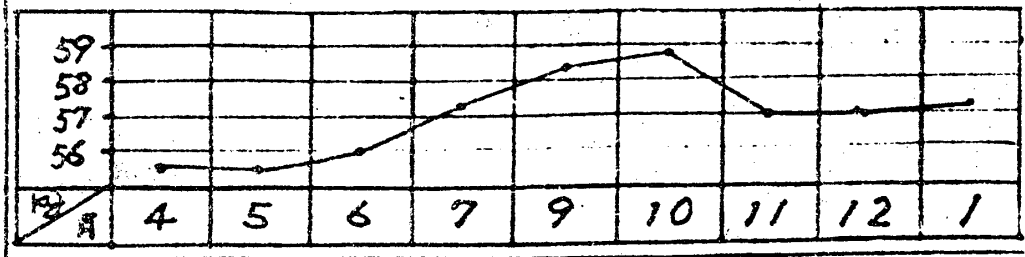
##### 設定条件

生活区分 女子生活部 学年 15才  
身長推計基準値 167.1 cm  
体重推計基準値 80.38 Kg



プリンターの準備はできていますか？ (Y/N)

※今月度の体重の変化（月別）



このとりくみの中で、体重そのものは増加傾向が止ったという現状であり、大きな成果とはいえないが、どちらかという学校のとりに批判的であったり、非協力であった保護者が、学校の要請に真剣に取り組んでくれるようになり学校に対する信頼感が生まれてきていることがうれしいことである。学部として家庭との連携を重視してきたが、こうした点こそ大きな前進だと考えている。

### (3) ことばの力を育てる

「絵カード」と「文字カード」による発声をくりかえす。

家庭での「かるた」による“ひとり遊び”にヒントを得て、現在「二～三音語」のカードを使って発音練習をさせているが、「四音語」以上、あるいは、「二語文」以上については、「音」の省略がまだまだ多いのが実状だ。

また、不明瞭な発音については、特に「サ行」等が多いことがわかったが、機械的な反復で是正をはかるのではなく、根気よく、とにかく口をひらいてでてる「ことば」の数が増えることを重視している。

その結果、以前にくらべて、「ことば」の表出がかなり多くなってきているし、「朝の会」の司会の場面でも、からり他から促がされなくとも自ら、しゃべりはじめ、表情もずいぶん明るくなった。

### ・教師とたくさんの「童謡」を合唱する

四月以来、教科書に掲載された「童謡」を、幾度となくうたってきたが、初めの頃は、自らうたうことをしなかったが、最近では教師の口まねで口ずさむようになった。このとりくみも表出言語が増えてきた要因ともいえそうだ。

なお、本児が好んでうたわせる歌は、「線路は続くよ」、「四季のうた」、「大きな古時計」、「そーらん節」、「切手のないおくりもの」などであるが、その理由を説明できないのは残念である。

## 5. 今後の課題

ダウン症に限ったことではないが、障害児の早期療育の重要性が重視されている。こうした障害児教育の現状に到る以前に思春期をむかえている本児などの場合においても、発達原則に立った指導のプログラムを暦年齢もふまえつつ編成する必要のあることを痛感した。

格別、「取り組みの構想」とかかわつての今後の課題を以下に列挙してまとめとしたい。

### (1) 本児の欲求（学習意欲）を充たすことのできる学校生活の確立

この点では、できるかぎりその場（機会）を保障するよう配慮してきたつもりであるが、学部や学級の集団としてのとりくみにするための創意・工夫が求められている。個別対応の時間が少ないことや教育課程にどのように位置づけるかも今後の課題である。

### (2) 肥満の解消のための食生活の改善にかかわる家庭との連携の強化

「からだづくり」「生活リズムの確立」など、まさに本児の生命とも深くかかわる課題であり、家庭と学校の一層の連携が必要である。

今日の「からだ」の到達点を性急に改善することはむずかしいことだと考える。根気よく、時間をかけ保護者の理解と協力をどう組織し、実践するかだと考える。

### (3) 「言語」の理解と表出を高める

コミュニケーション手段としての「ことば」の獲得には、単なる「単語覚え」や「発音の反復」では効果のないことを実感した。言語表出までの「言語認知」プロセスの重視が今後の課題である。

また、言語の発達の順序性をふまえた「カード学習」のプログラム（系統性）の立案を考えていきたい。同時に「ことば」を豊かにするためには、生活やあそびとの関連を重視する必要がある。